

◆ 4番（小川義昭君）

地域住民の自主自立組織によるまちづくり協議会、このことに対して、やはり特にこの財源と、それから権限ですか、これを移譲した地域内分権運営の構想、今ほど私の申しましたこのことについては、どうも御理解が得られなかったようではありますが、当然このまちづくり協議会は、今ほど答弁がありましたように、地域の住民が主体となって自主的に組織するものでありますが、やはり行政として、いま一步踏み込んだ、こういった組織体制づくりをこれから研究、検討されることをお願いいたします。

それでは、次の質問に移ります。

最後の質問、4点目です、白山市観光プラットフォームの考え方と内容について質問いたします。

現在、白山市観光ビジョンの基本構想として計画している白山ブロードウェイ構想で中心的な位置づけとなる観光プラットフォームが観光施策で担う役割は何なのか。その役割範囲と市との関連についてお伺いいたします。

行政が施策事業を執行する場合、必ず平等の原則が先行するため、発信する情報にメリハリをつけがたく、PR効果が十分行き渡らないとか、信教への不介入原則から、有力な観光スポットで知られる白山比咩神社など、神社、仏閣に焦点を当てた企画を立てることは大変難しいのが実情であります。民間機関ですと、このような制約を受けることが少なく、やる気のある事業者との連携がスピーディーに可能となります。

また、今回計画している観光プラットフォームは、つくって終わりではありません。活発な活動を継続する中で、多くの市民とのかかわりの輪が徐々に拡大していくことが望まれます。当然、行政においても、観光推進部だけがかかわるのではなく、観光客の2次交通問題や食の観点から、地産地消を推進するために、企画財政部や産業部などが強力にスクラムを組んで、プラットフォームの土台を支える必要が出てくるのではないのでしょうか。

観光推進は、民間が主体となり、行政が後方支援する形態が望ましいと考えるものですが、今般、白山ブロードウェイ構想の中心に位置づけられる観光プラットフォームに対し、市はどのようにどこまでかかわっていくのか、その考え方と内容、組織の役割、人事面、事業的規模、事業費などについて、できるだけ具体的にお聞かせ願います。